

# あきたの 地域医療通信

2017年1月 第26号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課  
医師確保対策室



無医村の診療所に赴任してから27年にわたり住民の健康の保持に努められ、この度、「日本医師会 赤ひげ大賞」を受賞した横手市（旧山内村）の山内診療所院長の下田輝一先生にお話を伺いました。

## Q1. 受賞の感想をお聞かせ下さい。

A. 「赤ひげ大賞」というものがあるということは知っていましたが、他にも自分と同じようなことをしている医師はたくさんおられますし、自分には関係ないものと思っていました。強いて言えば、山手線の内側の面積の約4倍もあるこの旧山内村地区に私ひとりしか医師がいないということが評価されたのでしょうか。

患者さんも新聞で受賞を知ったようで、「おめでとう」と言われたり、お祝いのお花や電報をもらったりもしましたが、私自身はまだ戸惑っています。

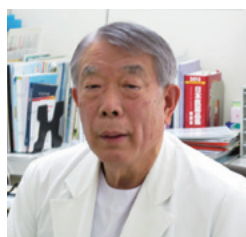
## Q2. 診療所に勤務するまでの経緯を教えてください。

A. 大学卒業後は、師事していた教授の下、大学病院で勤務しました。同教授は、職業性喘息を代表する「ホヤ喘息」を発見した先生であり、自分も喘息やアレルギーなどを主とした呼吸器内科を専門に勉強してきました。

10年が経ち、恩師が定年を迎え、自分も新しい環境で勤務しようかと考えていた頃、市立横手病院が内科の常勤医不足で大変な状況となっていました。そこで、当時の院長から熱心にお誘いいただき、市立横手病院で11年お世話になりました。



こうした勤務をしながらも常に頭の片隅にあったのが、「山内村の村長が、村に医者がいなくて全国を探し回っていた。」ということでした。



山内診療所 院長  
下田 輝一 先生

## 【プロフィール】

秋田県横手市出身。  
昭和43年に岩手医科大学を卒業し、同大第三内科に入局。

昭和53年から市立横手病院で勤務し、平成2年に当診療所へ赴任。専門は呼吸器内科。

市立横手病院で受け持った患者の中にも山内村から来ていた方がいましたし、立派な診療所でありながら、近隣病院からの診療応援による週1日しか利用されないのはもったいないとも思っていました。そこで、村長に診療所での勤務を相談したところ、快く歓迎していただき、現在に至ります。

## Q3. 勤務の状況を教えてください。

A. 患者は高齢者が多いので、耳が遠い方が多く、耳元で話をしたり、大きな声で話をしたりします。良く話をして良く話を聞いて、それに対応していろいろなことを考えてあげることが重要です。年をとるにつれて動けなくなってくる患者も多く、この地域は交通の便が良くないため、家族が連れてくることも多いです。そのような人たちのために、私が診療所に勤めてからは訪問診療も始めました。

また、当診療所に勤務することとなった時、ここから12～3kmほど離れたところにある三又診療所も一緒に診てくれないかとお願いされ、週1回、診療しています。合わせて、自分の父親が開業していた下田医院が横手市大雄にあり、父親が亡くなってから週2日診療しています。

この地域にはもう1ヵ所診療所があったので、父親が亡くなった時に閉院も考えましたが、自分が育った地域ということもあり、続けています。山内診療所を挟んで正反対の方向にこの2つの診療所があり、それぞれの診療所の患者さんの訪問診療も行っています。深夜2～3時に吹雪の中、看取りに行ったこともあります。

#### Q4. 長年に渡り診療所勤務を続けてこられた理由を教えてください。

A. 自分でも良く続くなと思っていますが、一番は、「自分がやらなければ、他にやる人がいない」ということです。



「適当なところで抑えなければ」と思うこともありますが、自分を待っている患者がいるので、続けられるうちは今のスタイルで続けたいと思っています。「70歳も過ぎるとだんだんと体力も落ちているな」と感じますが、まだ苦痛だとは思いません。

ちなみに、一番の趣味はクラシックギターでして、東京まで

演奏会を聴きに行くこともありますし、以前は、市立横手病院のクリスマス会で演奏したこともありました。CDは400枚くらい持っています。歳を取ってきて、昔ほど指を上手に動かすことができなくなってきましたが、この音色に癒やされながら、日々、がんばっております。

#### Q5. 医学生や研修医、若手医師へメッセージをお願いします。

A. 医師としてどのような道を歩んでいくかは人それぞれです。実家を継がなければならない人もいれば、病院勤務を続けていくという人もいます。ですので、「へき地に来て下さい」とは言えませんが、まず10年は大学病院や大きな病院という組織で研修・勉強することで、知識を身につけ腕を磨くことが大切だと思います。10年勤めると、医療技術はもちろん、医師として必要なことが色々身につけてきますので、より自分に合った道を選択することができると思います。

私はこの地域の皆さんに信頼されて来てもらえることが自慢です。学生や研修医の皆さんも、どのような道に進んでも、皆に信頼される医師を目指して欲しいと思います。

## イベントカレンダー

| 開催月日 | 名 称                           | 対 象                            | 場 所                  | お問合せ先<br>(団体名/電話/FAX)                              |
|------|-------------------------------|--------------------------------|----------------------|----------------------------------------------------|
| 2月   | 4日(土) 医学生、研修医をサポートする会         | 医学生・研修医や若手医師支援に関心のある指導医等すべての医師 | 秋田キャッスルホテル(秋田県秋田市)   | 秋田県医師会<br>TEL:018-833-7401<br>FAX:018-832-1356     |
|      | 10日(金) 秋田県臨床研修病院合同説明会         | 医学生                            | ホテルメトロポリタン秋田(秋田県秋田市) | 秋田県臨床研修協議会<br>TEL:018-860-1410<br>FAX:018-860-3883 |
| 3月   | 5日(日) レジナビフェア2017 in 福岡       | 医学生                            | マリンメッセ福岡(福岡県福岡市)     |                                                    |
|      | 19日(日) レジナビフェアスプリング2017 in 東京 | 医学生                            | 東京ビッグサイト(東京都港区)      |                                                    |

## 保健所勤務医師を募集しています。

秋田県内の保健所医師として勤務して下さる方を募集しています。

[応募資格] 公衆衛生行政に従事(研究)した方、公衆衛生行政に造詣の深い方、又は公衆衛生行政に意欲を持つ方で採用時の年齢が65歳未満の医師免許を有する方。

[勤 務 先] 県内8保健所(大館、北秋田、能代、秋田中央、由利本荘、大仙、横手、湯沢)

詳細はこちらを  
ご覧下さい

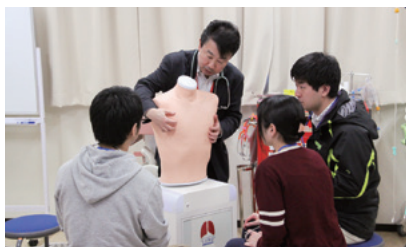
秋田県公式 web サイト「美の国あきたネット」  
県政情報 職員・採用案内 保健所勤務医師の募集について

応募については  
随時受付していますので  
お問い合わせ下さい

【お問い合わせ】秋田県健康福祉部福祉政策課総務班 TEL:018-860-1311 FAX:018-860-3841  
〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号 E-mail:welfare@pref.akita.lg.jp

## 医学生セミナー

平成28年10月29日(土)に秋田大学医学部附属病院のシミュレーション教育センターで医学生のための実践セミナーが開催されました。今回は県内外の大学から15名が参加し、「将来何科に進んでも大切な主要症状に対して」をテーマに、循環器内科と神経内科の先生から講演していただきました。また、サーキットトレーニングでは、心臓・肺の聴診、神経診察、心エコー、腹部エコーを行い、心エコーでは実際に人に当てて練習できたことがとても好評でした。セミナー終了後は、居酒屋に場所を移し、秋田の郷土料理とお酒を堪能し、学生たちも交流を深めていました。



## 研修医講習会

平成28年11月18日(金)、19日(土)の2日間、大潟村のホテルサンルール大潟を会場に「第10回レジデント・スキルアップキャンプ2016」を開催しました。福井大学医学部地域医療推進講座教授の寺澤秀一先生から救急を如何に研修するかをご講義いただき、サーキットトレーニングでは各分野の指導医が救急での極意を教えてくださいました。症例発表では寺澤先生が一つ一つの症例にフィードバックしてくれたのでとても勉強になり、また、同期の皆が経験しそうな冷や汗症例を聞いたことでとても良い刺激になったようです。



## 秋田大学医局紹介

### 秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学講座

当講座では羽瀧友則教授を中心に、診療、研究、教育、全てにバランスよく且つ高いレベルを維持できるように常に意識して取り組んでいます。診療においては泌尿器がん診療、ロボット支援手術や腹腔鏡手術等の低侵襲手術、腎移植を3本柱とし、600床規模の大学病院において、稼働額で全国トップを走っています。また日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会・日本内視鏡外科学会3学会認定の腹腔鏡技術認定医も関連病院も含めて22名と、非常に多くの認定医を輩出しています。研究活動においては、そのactivityの指標となり得る科学研究費獲得額(国内第9位)、米国泌尿器科学会演題採択数(国内第3位)など、旧帝大を含めた国内全大学の中で常に上位にランクインしています。結果として当講座出身の大山力先生(現:弘前大学)、土谷順彦先生(現:山形大学)が、現在、他大学の泌尿器科教授として活躍されておられます。学生に対する指導では、臨床実習後の本学学生のアンケート調査で「廻った診療科のうち、最も良い指導であった診療科」ランキングで2年連

続1位を獲得しました。学生からの高い支持を得ていることもあり、地方大学でありながら新臨床研修制度が施行されて以降も毎年平均2.5人の新入医局員を迎えることが出来ています。平成29年度も4人の新入医局員を迎える予定です。

我々は秋田県民の方々に安全・安心の高度医療を享受して頂けるよう、最強で最高の泌尿器科教室を目指し、日々精進しています。



### 問い合わせ先

秋田大学大学院腎泌尿器科学講座

講師 齋藤 満(医局長)

Tel: 018-884-6156 e-mail: mitsaito@med.akita-u.ac.jp

HP: <http://www.med.akita-u.ac.jp/~hinyoki/>

# 指導医メッセージ

市立横手病院  
外科

岩崎 渉 先生



私は東京で生まれ千葉で育ちましたが、気付けば秋田での生活の方が長くなりました。秋田は不便でしょう、大変でしょうと聞かれることがあります、私は全くそう思いません。秋田で外科医をやって本当に良かったと思っています。家族で夏はキャンプ、冬はスキーを楽しんでいますし、食べ物も日本酒も美味しいです！飛行機や新幹線を使えば秋田から全国へ容易に行けますので、学会、研究会への参加も問題ありませんし、臨床で行っていることは都市

部と変わらないと思っています。むしろ医師不足のため、自分で経験できる症例は多いと感じます。この環境を生かせるかは自分次第だと思います。

当科で言えば腹腔鏡手術に力を入れており、鼠径ヘルニアから消化器がんまで、低侵襲かつ根治性を重視した手術を行っています。希望者はレベルに合わせて研鑽を積むことができます。また当院に消化器内科医が多いことから、様々な症例を経験でき、毎週行われる合同カンファレンスでは活発なディスカッションが行われています。医局の風通しも良く、他科へ気軽に相談できる環境があります。

当院は明治22年に開設された歴史ある病院ですが、秋田県内で最も早く電子カルテを導入したり、2月のかまくら祭りでは病院前にかまくらを作って甘酒や横手やきそばをふるまうなど、様々な面で柔軟性のある病院だと思います。

是非一度、当院へ見学にいらしてください。一緒に秋田県の医療を盛り上げていきましょう！

## 研修医メッセージ

秋田厚生医療センター

笠間 史仁 先生

(秋田大学・宮城県出身)



私は宮城県仙台市出身で、秋田大学を卒業し、2016年4月より秋田厚生医療センターで初期臨床研修をしています。

卒後は地元仙台での研修も考えていましたが、秋田での研修が素晴らしいものだという部活OBからの確かな情報、多くの同期の存在、そして様々な病院での実習や病院見学で実際に感じた雰囲気から、秋田での研修が自分にとって

ベストであると確信し、豊富な指導医・先進的な治療・県内トップの救急症例数を誇る当院での研修を選択しました。講義やセミナーも数多くあり、学びの多い素晴らしい研修生活を送ることができています。

初期研修医としてスタートして半年が過ぎましたが、まだまだ各科の先生方から日々ご指導、叱咤いただき、メディカルの方々に支えていただきながら診療しています。命を預かる職に責任感ややりがいを感じながらこれからも精進いたします。

研修先を検討中の方は一度当院に見学に来て下さい。研修医一同お待ちしております。



## 独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)秋田病院

〒016-0851 能代市緑町5-22 TEL:0185-52-3271 HP:<http://akita.jcho.go.jp/>

当院は能代市の中心部に所在し、診療科11科、病床数は一般167床、附属介護老人保健施設(100床)を併設し、健康管理センター(健診車2台)、居宅介護支援センター、訪問看護ステーションなどの機能を備え地域に必要とされる病院を職員一丸となって目指しております。

昭和20年の開院以来、社会保険病院として運営して参りましたが、平成26年4月に全国57病院ネットワークのJCHO病院として新たなスタートを切りました。5疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患)、5事業(救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療)、リハビリテーション、その他地域において必要な医療・介護を提供することを目指すとしております。

JCHOでは、平成29年度から地域医療に貢献する医師を育成するため、「JCHO版病院総合医育成プログラム」を開始します。この育成プログラムは、JCHOのネットワークを活用し、医師個人のニーズに合ったカリキュラムを提供するJCHO独自のプログラムです。詳細は、<http://www.jcho.go.jp/hospitalist/> をご覧ください。

### … お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号  
E-mail: [ishikakuho@pref.akita.lg.jp](mailto:ishikakuho@pref.akita.lg.jp) Tel. 018-860-1410